

大切な友だち

小 二

ぼくは一年生するとき、てん校する前の学校で、ある友だちと出会いました。

その子とぼくは同じクラスで、学どうも同じで、同じサッカーチームに入っていました。だから、すごくよくあそんでいました。あそんでいるときは楽しかったけれど、その子は少しらんぼうなときがあったのでいやだと思ふこと

がありました。

ある日、いっしょにあそんでいるときにその子がたたいてきて、ぼくもたたきかえしてしまつて、おたがいにいやな気持ちになることがつづきました。

お父さんにそうだんしてみたら、お父さんが、「『ぼくもやりかえさないかららんぼうしないで。』とゆう気を出してつたえてみてごらん。」と教えてくれました。つぎの日、ぼくはお父さん

が教えてくれたとおりに、学校でその子につたえてみました。そうしたら、その子が、

「分かったよ。」

と言ってくれました。それから、その子はらんぼうしなくなりました。そして、ぼくたちはとてもなかよくなりました。てん校した今でも、ぼくにとつてその子は一番大切な友だちです。

この大切な友だちができたことから、ぼくは自分の考えを、ゆう気をもってあい手につたえることが大切だと分か

りました。今までは、きらわれたくないなと思い、なかなかゆう気が出せずにいました。でも、自分からゆう気を出してつたえることで、おたがいになかよくなれたので、これからは自分の考えをしつかりつたえ、さらにあい手の考えもさい後まで聞けるようになりたいです。